

令和元年（2019年）度上期胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）の状況について

令和 2 年 1 月
北海道胆振総合振興局

【概要】

令和元年（2019年）度上期の訪日外国人宿泊者数（延べ数）は、426,707人泊（前年同期比94.3%）と、平成30年度上期と比較して25,993人泊の減少となりました。ピークの平成29年度上期から2年連続で減少しています。

【国・地域別の状況】

訪日外国人宿泊者数（延べ数）を国・地域別に見ると、台湾が121,846人泊で最も多く、訪日外国人宿泊者数（延べ数）の28.6%を占めています。次いで中国（90,822人泊）、韓国（86,002人泊）、香港（34,456人泊）、シンガポール（15,035人泊）、タイ（14,121人泊）、マレーシア（11,103人泊）となっています。

その他インドネシア（1,692人泊）、フィリピン（1,088人泊）、ベトナム（303人泊）、インド（111人泊）を含めたアジア圏からの観光客が、訪日外国人宿泊者数（延べ数）全体のおよそ88.3%を占めています。

中国（111.6%）は、3年連続で増加しており、今期は90,000人泊を超え過去最高となりました。4月に新千歳空港から大連へ就航が開始したことなどが影響しています。中国への新千歳空港からの就航都市は8都市と、国際線の中で最多となっています。

一方、韓国は、日韓情勢による訪日旅行控えや空港路線の運休、減便などにより、前年から大きく減少し、さらに台湾も減少しました。台湾については、管内（86.8%）、道内（95.1%：北海道運輸局の資料を元に試算）ともに減少しましたが、その理由として、航空会社のストライキ（6月、7月）による影響が考えられること、また、台湾と日本各地との空港路線の新規就航や増便により日本国内の訪問先が増え、旅行者が分散したものと思われます。また、デモ活動による空港閉鎖があった香港、日並びの良かった8月と9月に航空路線の期間運休が重なったマレーシアも減少しています。

その他（131.0%）では、ラグビーワールドカップ2019の出場国が含まれる欧米豪は、同期比で最も多かった平成30年度上期の9,545人を4,763人上回り、過去最高となりました。（9/21、9/22札幌開催）。

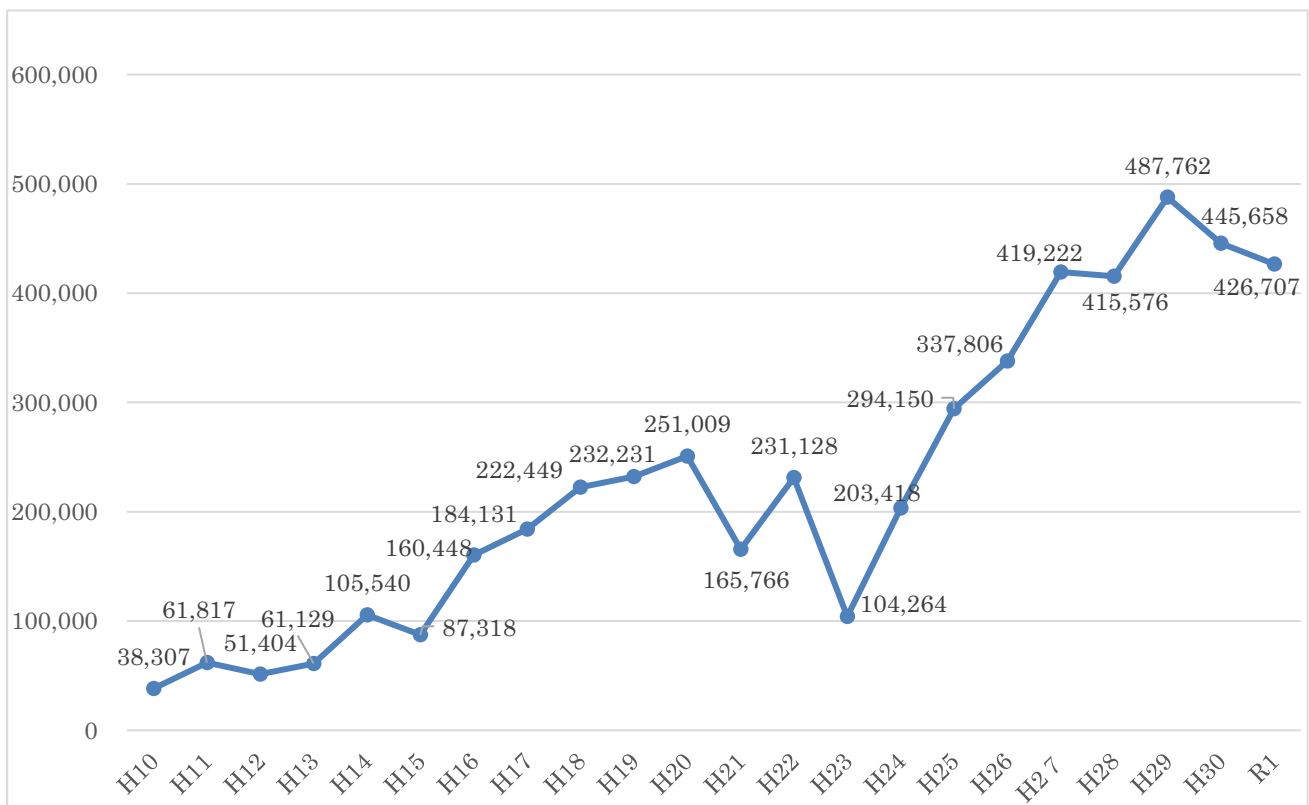
【参考1】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）内訳

（単位：人泊、％）

順位	国・地域	令和元年（2019年）度上期宿泊者数（延べ数）		前年同期比	前年度上期からの増減数
			構成比		
1	台湾	121,846	28.6%	86.8%	▲18,540
2	中国	90,822	21.3%	111.6%	9,415
3	韓国	86,002	20.2%	78.5%	▲23,531
4	香港	34,456	8.1%	89.5%	▲4,058
5	シンガポール	15,035	3.5%	110.6%	1,446
6	タイ	14,121	3.3%	98.7%	▲181
7	マレーシア	11,103	2.6%	77.8%	▲3,177
その他		53,322	12.4%	131.0%	12,633
合計		426,707	100%	94.3%	▲25,993

【参考2】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）の推移（H10年度～・上期のみ）

（単位：人泊）



【参考3】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）国・地域別の推移（上期のみ）

（単位：人泊）

